

グローバルイノベーション創出支援事業 令和元年度上半期の主な取組みについて

グローバル展開に向けた取り組み

ヨーロッパとのネットワーク構築、事業連携推進

令和元年6月16日～23日

目的・概要

- ・ヨーロッパの新たなスタートアップハブとして急成長するドイツおよびスイスでの施設訪問や意見交換を通じて情報収集するとともに、大阪の取り組みについて情報発信する。
- ・国際会議やピッチイベントへのスタートアップの推薦など、今後の事業連携について関係機関と協議する。

成果・今後の展開

- ・3都市（ベルリン、チューリッヒ、ベルン）の計11機関の訪問、国際ピッチイベントGet in the Ring 2019参加を通じて意見交換を行い、新たなネットワークを構築するとともに、スイスを中心とした従来から交流があった機関との具体的な事業連携に向けて対話を継続。
- ・Hack Osaka 2020への登壇者（キーノートスピーカーおよびパネリスト）3名の発掘に成功。



アジアとのネットワーク構築、事業連携推進

令和元年7月23日～27日（タイ）

令和元年6月27日～29日（シンガポール）

目的・概要

- （タイ）・スタートアップ・タイランド2019に参加し、出展者や行政機関、スタートアップ・支援機関とのネットワーク構築やOIHを通じて出展した2者のサポート等を通じた情報発信を行う。また、国際会議やピッチイベントへのスタートアップの推薦など、今後の事業連携について関係機関と協議する。
- （シンガポール）・Innovfest Unbound（スタートアップ・イノベーションイベント）に参加し、出展者や行政機関、スタートアップ・支援機関とのネットワークを構築する。また、主催者事務局であるシンガポール国立大学エンタープライズを通じて日本からの出展者の支援を行う。

成果・今後の展開

- （タイ）・スタートアップ・タイランドの参加者に加え、個別に訪問したスタートアップ2社とアクセラレーターとのネットワークを構築できた。現地の支援機関であるNIAとOIHの連携を進め、タイでビジネスを考える日本のスタートアップをサポートして行く。
- （シンガポール）
 - ・JR東日本が現地に開設したコワーキングスペース「One&Co」と連携を開始。日本のスタートアップのためのビジネス拠点としてイベント共同企画やOIH 企業のシンガポール進出を支援して行く。



One&Co

イノベーション創出に向けた取り組み

イノベーション人材のコミュニティ形成、人材育成 OIH会員向け(大阪大・佐久間洋司氏の連続講座)

令和元年7月～令和2年3月(毎月1回実施(9月を除く))

目的・概要

- ・起業家マインドの醸成とイノベーション人材の発掘や育成を目的に、10代～20代の若手起業家(学生を含む)を対象として、毎月、最先端のテクノロジービジネス(人口知能、バーチャルリアリティ、宇宙開発等)をテーマに連続講座を実施
- ・世界的に活躍する研究者や起業家をゲストとして招き、テーマに沿った講義を行う。その後、佐久間氏がファシリテーターとして、そのテーマをについて、ゲストとパネルディスカッションを行う。



参加・実施状況

- ・開催日: 7月1日 テーマ: 2030の私達の時代にAI・IOTはどんなビックデータを生み、進化しているか?
参加者数: 32名 ゲスト: 本村 洋一氏
- ・開催日: 8月30日 テーマ: バーチャルリアリティと人間の身体の行方を探る 参加者数: 26名 ゲスト: 稲見 昌彦氏
- ・開催日: 10月18日 テーマ: 脳情報が生み出すビックデータと新しい産業 参加者数: 22名 ゲスト: 関谷 毅氏



オープンイノベーションに向けた取組 新規事業者向け(eiikon 中村亜由子氏によるセミナー)

平成31年4月25日

目的・概要

- ・オープンイノベーションを成功させるために、外部から新たな技術やアイデアを取り入れ、革新的なプロダクトやサービスを共に創造していく秘訣と他社と共創していく方法を事例を交えながらセミナー形式で紹介



参加・実施状況

- ・来場者 103名
- ・eiikon 中村亜由子によるセミナー / eiikon 中村亜由子とfabbit 塩谷愛によるトークセッション
- ・出席者の大半は大企業の新規事業対象者



イノベーション創出に向けた取り組み

ピッチ



毎月第2・第4金曜 午前7:00 ~ 8:45

目的・概要

- ・ シード～アーリー期の企業や新規事業に意欲的な企業がプレゼン
- ・ 大企業やV C、金融機関、メディア等のオーディエンスが評価・アドバイス

参加・実施状況

- ・ 上半期で11回開催し、合計51社が登壇。
- ・ 開催テーマ:働き方×女性ベンチャー(第114回)、フードテック(第115回)、次世代テクノロジー(第116回)、U30起業家(第117回)、AIビッグデータ(第118回)、ものづくり(第119回)、けいはんな(第120回)、エドテック(第121回)、エンタメ(第122回)、OSAP(第123回)、業務効率化(第124回)



オープンイノベーションプログラム

ディスカバリー・ジャパン株式会社 × 株式会社ダイフク 主催のハッカソン

令和元年度9月6日・7日・8日

目的・概要

- ・ ものづくりイベント「Daifuku Presents Discovery Hackathon 2019」
- ・ 「足りてるモノを 足りないトコへ」をテーマに、「Provide (提供)・Exchange (交換)・Share (共有)」のキーワードから、毎日の生活や社会から課題を見つけ、アイデアを具現化して、暮らしや世界を変えるサービスやプロダクトの開発を学生を対象に開催した。

参加・実施状況

参加者:86名

9月6日:オリエンテーション、展示場見学、インスピレーショントーク、チームビルディング、アイデアソン

9月7日:オリエンテーション、インスピレーショントーク、ハッカソン、ツール講習会、サポートメンタリング

9月8日:ハッカソン、プレゼンテーション、審査、授賞式



目的・概要

- ・創業前後のベンチャー企業に対し、起業経験者やオープンイノベーションを志向する大企業、VC、メディア、専門家等と連携して「短期集中的な事業化の加速支援」を行うことで、関西のイノベーション創出力の強化をめざす
- ・プログラムの成果として、大企業等との事業連携や資金獲得をめざす

【概要】

- ・1期につき4ヶ月間で、支援プログラムを実施
- ・メンター陣による各種勉強会や、個別メンタリングにより、ビジネスモデルをブラッシュアップ
- ・VCとの集中メンタリングや、大企業とのネットワーク構築機会の提供、デモデイ等により、投資や事業連携をめざす

参加・実施状況

第7期:2019年4月募集 6月下旬～10月上旬支援

支援企業数:10社

実績: 資金調達 2,000万円(※第7期生のみ)

(これまでの支援総額:55億円超)

大企業等との事業提携 1件(※第7期生のみ)

(これまでの総計:66件)

メディア露出件数: 24回(※第7期生のみ)

(これまでの総計:293回)



テックミーティング

目的・概要

大学の持つ研究技術シーズをもとに、新事業創出を支援する。

参加・実施状況

◎大阪大学ベンチャーキャピタル(OUVC) OUVC Meet Up「ベンチャーによる阪大AI技術の活用」

開催日時: 令和元年6月24日(月)(参加者約100名)

概要: 「AI技術」をテーマに、阪大AI研究最前線を紹介。スタートアップをターゲットに、既存事業に「AIを掛け算して事業を加速させるマッチング」という新たな試みで実施。



◎けいはんな 産学連携テックミーティング

「先端シーズフォーラム “メタン”を“メタノール”に変換 常温常圧の次世代技術」

開催日時: 令和元年8月22日(木)(参加者約100名)

概要: 将来の供給などに備えるため、メタンを効率よく酸化し、より利用しやすく変換する仕組みとして、同志社大学の「バイオインスパイアード触媒」と、大阪大学の「メタンガスを二酸化炭素の排出なしにメタノールとギ酸に変換する低コスト・クリーンなガス・液体変換反応」について紹介。



◎大阪大学ベンチャーキャピタル(OUVC) OUVC Innovators' Meeting

開催日時: 令和元年9月18日(水)(参加者約100名)

概要: OUVCの投資先の内、創薬・医療サービス分野のバイオベンチャー企業による最先端の事業発表及びAMEDから産学連携の講演。

◎関西大学 社会課題解決のための、大学研究シーズ発表会

開催日時: 令和元年10月30日(水)(参加者約60名)

概要: SDGsに係る社会課題を解決に導く目標に関連した関西大学の最先端シーズを発表し、企業等とのマッチング、技術移転の促進に資する。



大阪市イノベーション創出支援補助金

目的 大学の持つ研究・技術シーズをもとにした産学連携の研究開発に係る費用の一部を補助し、その実用化に向けた取組みを推進し、もって本市の経済活性化及びイノベーション創出を図る。

概要

補助対象者

国内の大学(大学の研究者)

補助対象事業の要件(以下の全てに該当)

- ・産学連携による研究開発事業
- ・研究成果・技術の実用性を検証する事業
- ・大阪市内に事業所を有する民間企業または個人との連携事業(※)
- ・同一の研究課題について他の補助金を受けていないこと

※大阪市内の大学に限り、大阪市内の民間企業または個人との連携事業も対象とする。

補助対象経費及び補助額

対象経費：設備費、材料費及び消耗品費、旅費、謝金、その他調査費等

補助率：1/2 上限額200万円
(補助金以外の経費は連携先が負担)

交付確定件数(大学別) ※ H23年度は実証性検証補助金として実施

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
大阪市立大	2	1	3	4	6	5	2	4	27
大阪大	1	3	2	2	1	3			12
大阪府立大	2	1	3	1	2				9
立命館大	1	1	1						3
同志社大	1					1		1	3
大阪電気通信大		1							1
大阪医科大		1							1
室蘭工業大		1							1
徳島大				1					1
関西大					1				1
神戸大						1	1	1	3
兵庫県立大						1			1
和歌山大						1			1
東京医科歯科大						1			1
相愛大							1		1
大阪工業大							1		1
奈良女子大							1		1
東京女子医科大							1		1
関西医科大								1	1
摂南大								1	1
計	7	9	9	8	10	13	7	8	71
予算(百万円)	20	20	20	15	13	13	13	13	

下半期の主な取組予定

グローバルイベントの開催

2月に3つのグローバルイベントを集中的に開催

国際イノベーション会議Hack Osaka2020

令和2年2月27日（木曜日） 13時～18時

- ・起業家や投資家、大企業、学生など様々なプレイヤーが参画
- ・来場者数：約700名

（内容）

- ・世界的に活躍する著名人や起業家によるスピーチ
- ・Hack Award 世界各国の起業家が参加するピッチコンテスト
- ・パネルディスカッション 各国から集結したパネリストがオープンイノベーションについて議論
- ・チャットングカフェ 登壇者と一般来場者の
- ・スタートアップショーケース 新しい技術・サービスの開発に取り組む企業によるブース展示



Startup World Cup

令和2年2月6日（木曜日）

- ・発祥：米国（2017年）
- ・大阪での開催：初開催
- ・来場者数：300名（想定）
- ・決勝戦の開催地：米国シリコンバレー
- ・主催：大阪イノベーションハブ
ペガサス・テックベンチャーズ



Get in the Ring

令和2年2月20日（木曜日）

- ・発祥：オランダ（2012年）
- ・大阪での開催：4回目
- ・来場者数：約250名
- ・出場者数：2つの階級で計20名が予選のピッチに出場し、勝ち残った6名がリングにあがる。各階級の優勝者2名が決勝戦へ。
- ・前回2019は、日本人2名が決勝戦へ出場



下半期の主な取組予定

スタートアップ・エコシステム支援拠点都市

概要

内閣府が、シリコンバレーやニューヨークのように、先端技術を活用し、新ビジネスを創出するスタートアップ企業成長する拠点となる都市の形成に取り組む。

グローバル拠点都市：2～3箇所、推進拠点都市 数カ所を選定予定。

主なスケジュール

2019年（令和元年）

- 6/11 : 内閣府がスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略を公表
- 8/26～9/27 : 内閣府による予備調査（「首長の方針」など自治体の取り組みを回答）
- ～12月中旬 : 内閣府による事前調査

2020年（令和2年）

- 1月中旬～2月中旬 : 公募（地方自治体、大学、民間組織等で構成されるコンソーシアムが対象）
- 3月下旬 : 選定委員会、拠点都市決定（グローバル拠点都市：2～3カ所、推進拠点都市：数カ所）
- 4月以降 : 国による支援開始

大阪市の取組み

➤7/19 大阪スタートアップ・エコシステム推進会議 設置
（メンバー：大阪産業局（事務局）、大阪府、大阪市、堺市、経済3団体、近経局）

➤9/5 市長が応募の意向を表明

➤10/31 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム 設置
【構成員】

大阪産業局、大阪府、大阪市、堺市、関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、関西大学、近畿大学、池田泉州銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、りそなグループ、INPIT、NEDO、JETRO、S-CUBE、オリックス不動産、ナレッジキャピタル、阪急阪神不動産、キーパーソン6名、近畿経済局（オブザーバー）

